

# 稲荷山だより

2021

秋

## 稲荷山川柳 with コロナ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため新しい生活様式に慣れてきてはいますが、現状はまだまだコロナ禍の中にいます。様々なストレスと向き合いながら日々がんばっているスタッフにアフターコロナに向かって活力につなげることを目的に、改めて気づいたことや感謝の気持など「Withコロナ稲荷山武田病院川柳」を募集し、職員間で投票を行いました。「明るい気分になった」「久しぶりにクスッと笑えた」「なんだかスカッとした」等ところがほぐれたひとときとなったようです。



## 職員の投票で選ばれた作品

第3位  
お父さん  
やっと握れた  
あなたの手

第2位  
夫婦間  
コロナの前から  
あいてます

第2位  
ガラス越し  
笑顔と涙  
届いている

第1位  
逢えぬ日々  
写真の君と  
語り合う

院長賞 子供とハグ ためらいながらも しっかりと  
看護部長賞 巣ごもりで 体力おとろえ はら太る  
事務長賞 届いてよ 家族の思い リモートで

# 患者作品集

新型コロナ感染拡大の下、東京オリンピックも無観客で行われました。文字通り、非常事態でございます。当院に入院中の患者さん方が、新型コロナウイルスに感染されませんように、苦闘している毎日です。その大変な日々の中、入院中の患者さんが、いろいろな芸術作品をつくり、私たちに供覧してくださいました。今日は、その中から、お許しを得た作品群をご紹介します。

どうぞ、ごゆっくり、ご鑑賞ください。

院長 土屋 宣之



図柄 / 入江ヒロ子さん 日本伝統工芸士 清水焼の絵付け

入江さんが仕事を始めて今年で 50 周年を迎えられたそうです。彼女自身にとっては、思春期に親の反対を押し切ってその世界に入られて、以降は彼女の人生そのものだったそうです。入院中も仕事を続けられました。病床では作品展示を強く希望されて「見方はどんなでもいい、鬱積した世の中であるからこそ、みんなで楽しんでほしい」と入江さんのお言葉です。



スクラッチアート / 高市元子さん

高市さんの病床生活は、塗り絵やレゴ細工などと供にありました。コロナ禍で面会や外出が制限されたので、子どもたちは「気を紛らわせるように」と都度の機会にキットを持ち込みました。高市さんもまた「子の想いに応えたい」一心で作品を作り続けました。長い闘病生活となりましたので、それは高市さんご家族だけでなく、スタッフも含めた共同作業となりました。



写真 / 古和田浩三さん

古和田さんは、多趣味でしたが全てにのめり込んでおられました。写真についても、「簡単に撮れるもんじゃない。明け方か夕刻の一瞬で、場所もどこでもいいというものではない。」といつも言っておられました。元々は奥様に先立たれて、一人暮らしが寂しくて始められました。しかし最期まで、自己実現を求めた方でもありました。



ボタニカルアート / 本山桃世さん

「ボタニカルアートは普通の西洋画ではないので、枯れている部分も穴の空いている所も全て描きます。美しい花だけじゃなく根っこの部分も描きます。一本一本違います。」「エノコログサは名前さえ知らなかった。子どもの頃は目に入らなかったかも知れない。誰かに踏みつけられていたかもしれない。そんな片隅に咲いていた花でした。でも今はけなげに咲いている。そして縁あって出会う事ができた。」本山さんは、描かれる草木に、自分や他の患者さんの一生を重ねておられ、それに勇気付けられているようでした。

稲荷山武田病院

〒612-0801 京都市伏見区深草正覚町 27 番地 TEL : 075-541-3371 (代表)

## 理念

患者さんの人権・尊厳を守る、安全で優しい医療・看護・ケアを提供します。

## 基本方針

1. 地域に開かれた病院として、皆様の目線に立ち、社会の要求に応えられる病院を目指します。
2. 信頼される病院として、皆様一人ひとりの意思を尊重し、安全で医療接遇の行き届いた医療を行うよう努めます。
3. 医療機関との連携を深め、チーム医療を提供します。
4. 働きやすい職場環境を作り、人間性豊かな医療を実践できる医療人を育成します。

秋号 : 2021.10.01